

アントロポゾフィー医学からの提言

統合的な医療から 通常医学の拡張へ

アントロポゾフィー医学は、日本ではシュタイナー教育の創始者として知られるルドルフ・シュタイナー博士と、イタ・ヴェーグマン医師によって約100年前に創始され、現在世界中で実践されている統合的な医学です。シュタイナーは通常医学を否定するのではなく、拡張すると述べており、まさに統合的な医学だからこそ通常医学への貢献できる領域があると考えられます。

私たち一般社団法人アントロポゾフィー医学の医師会は、前身である日本アントロポゾフィー医学のための医師会を2005年に設立し、2016年に法人化いたしました。設立20周年を記念して、現代社会にアントロポゾフィー医学から貢献できることを提案する機会を持ちたいと考えました。

アントロポゾフィー医学は、スイスのゲーテアナムにある精神科学自由大学医学セクションに世界的なネットワークの中心を持っています。その代表である3人の医師から、アントロポゾフィー医学が人々の健康により貢献できるであろう5つのケア領域について、オンラインで話を聞きます。日本で実践する医師と、現代の日本社会においてどのように貢献できるのか、対談も行います。通常医学の拡張としての統合的な医療に関心のある方に、ぜひ参加していただければと思います。

アントロポゾフィー医学
の医師会
20周年
記念講座

アントロポゾフィー医学オンライン連続講座 (2025年開催)

講座の内容についての資料は、下記のサイトから、それぞれの領域を選択していただくと、論文なども踏まえて紹介しています。ご参照ください。

<https://medicalsection.goetheanum.ch/focus-areas>

8/30(土) 16:00~18:00

アントロポゾフィー医学からみた不安と抑うつ ～ホリスティックな人間観にもとづくアプローチ～

講師*アダム・ブラニング医師



9/7(日) 15:00~17:00

ふたつの”境域”＝ 最初のがんの診断、そして緩和後期における課題 アントロポゾフィー医学はどのようにサポートできるのか？

講師*マリオン・デーブス医師



10/12(日) 15:00~17:00

幼児期の発達、感染症、発熱に関する アントロポゾフィー医学からの考察

講師*カリン・ミヒャエル医師



*オンライン配信(Zoom)、アーカイブ配信あり

*講座は、英語・ドイツ語で行われます。(逐次通訳付き・入間カイ氏)

*対象 アントロポゾフィー医学の基礎知識がなくてもご参加いただけます。医師、医療者向けですが、一般の方もご参加いただけます。

*参加費 日本アントロポゾフィー医学の医師会・日本アントロポゾフィー医療の会会員 通し10,000円 各講座4,000円
一般 通し12,000円 各講座5,000円

*お申込み [10月5日まで] ライブ配信の場合はその講座の1週間前まで(参加費のお振込をもって受付いたします)

お申込みフォームのURL <https://forms.gle/esH4czAYLgk2NqTv9>

*定員 80名

*主催 一般社団法人 日本アントロポゾフィー医学の医師会 / *後援 すみれが丘ひだまりクリニック

お申込みフォーム→



アントロポゾフィー医学オンライン連続講座



アダム・ブラニング
医師

8/30(土) 16:00~18:00

アントロポゾフィー医学からみた不安と抑うつ ～ホリスティックな人間観にもとづくアプローチ～

この講演では、不安が「感覚の摂取」と「感覚の範囲」によってどのように影響を受けるか、また、臓器の生理機能と精神疾患の関連を（抑うつを例に）取り上げます。

1995年に英文学、1999年に医学博士号を取得。ニューヨーク医科大学とコロラド大学医学部で家庭医学を教える。

コロラド大学医学部で家庭医学を教えた後、アントロポゾフィー医学の診療を開始。

2023年9月よりスイスにあるゲーテアヌムの医学セクションの共同代表。

米国コロラド州デンバーにてアントロポゾフィー医学に基づく家庭医療を実践している。

子どもたちの行動やニーズをよりよく理解するための観察方法を中心に、ヴァルドルフ学校と協力してきた。

米国とカナダでアントロポゾフィー医学の医師養成プログラムを共同運営している。

10/12(日) 15:00~17:00

幼児期の発達、感染症、発熱に関する アントロポゾフィー医学からの考察

今日のデジタルメディアの世界では、子どもたちの調節能力や健全な感覚運動、知覚の発達について多くの懸念があります。子どもの発達における第二の重要な分野は、免疫システムに関するものです。アントロポゾフィー医学は、不必要な抗生物質を避けることに貢献しています。健康なマイクロバイオームを支えるものは他に何かあるのでしょうか？ 幼児期の発熱にはどのように対処すればよいのでしょうか？ 講演では、アントロポゾフィー小児科医のカリン・ミヒャエル医師がこれらのトピックについて解説し、皆さんの質問にお答えします。

高齢者看護の専門課程を修了した後、ドイツのヴィッテン/ヘルデッケ大学にてアントロポゾフィー医学を学ぶ。2008年から2023年にかけて、ヘルデッケ・コミュニティ病院の小児外来にて上級医として勤務し、2014年から2021年まではボーフムにあるルドルフ・シュタイナー学校の校医も務めた。2023年9月より、スイス、ドルナッハのゲーテアヌム医学セクション共同代表。



カリン・ミヒャエル
医師

9/7(日) 15:00~17:00

ふたつの”境界”＝ 最初のがんの診断、 そして緩和後期における課題 ～アントロポゾフィー医学は どのようにサポートできるのか？～

がんと診断された時、そして終末期（緩和ケア）を迎えた時、それらのプロセスにおいてアントロポゾフィー医学からどのような支援ができるかについてお話しします。



マリオン・デブス
医師

ドイツ、シュトゥットガルトのロバート・ボッシュ病院で血液学/腫瘍学を専門とする。2005年から2017年まで、ベルリンのハヴェルヘーエ・コミュニティ病院腫瘍科で、外来診療部門の上級医師を務める。

2017年より、スイス、アーレスハイムクリニック腫瘍科長。

2023年9月より、スイス、ドルナッハのゲーテアヌム医学セクション共同代表。

ドイツアントロポゾフィー医学医師協会理事。

Merkurstab および Vademecum of Anthroposophic Medicines編集委員。ドイツ、ベルリンの Havelhöhe Medical Seminar共同ディレクター。



2026年
2月
開講

* アントロポゾフィー医学医師養成コース *

当医師会では日本での医師養成コースを始めます。関心のある方、ぜひお問合せください！

◎お問合せ先 info@j-paam.org 詳細が決まり次第、医師会Webサイトにてお知らせいたします

基礎コース	2026年2月～12月	臨床コース	2027年1月～2028年5月
アーレスハイムアカデミー基礎コースへ参加		(基礎コース終了後、養成に必要な内容と単位になります)	
内容	メイン講座オンライン参加 (英語で開催、通訳付き)、 日本人グループスタディ、自己学習	内容	日本人医師、海外医師等による講座、 体験講座など
メイン講座時間	4時間×8回	全体の講座時間	約100時間
グループスタディ	約6時間×8回	参加費	(検討中)
参加費	32万円(予定)	※単位制となっており、各自のペースで学んでいただけます。 上記時間は最短のモデルコースです。	



Goetheanum
Medical Section

精神科学自由大学医学セクション <https://medicalsection.goetheanum.ch/anthroposophic-medicine>

*主催 一般社団法人 日本アントロポゾフィー医学の医師会 <http://j-paam.org/newsandlectures>

*後援 すみれが丘ひだまりクリニック <https://hidamari.yamamoto-kinen.or.jp>